

# 明神小学校 「学力向上実行プラン」

## 研究テーマ

学力向上のための授業内容及び指導方法の工夫・改善  
～主体的に学習に取り組む児童を育成するために～

## 学力向上検討委員会

学力向上推進員  
教諭・5学年担任  
大野 実緒

教諭・研修主任（人権主事）：  
教諭・教務主任（低学年担当）：  
教諭・3学年担任（中学年担当）：  
教諭・6学年担任（高学年担当）：

### (1)基礎的・基本的な知識・技能の習得

児童生徒の状況	具体的目標(目指す子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ 朝の活動の時間や授業中は、与えられた課題に対して真面目に取り組むことができる。基本的な計算等については繰り返し学習により一定の成果が上がっている。	基礎・基本(計算・漢字)を確実に身につけている。正しい言葉で文章を読んだり、書いたりすることができる。	①家庭学習の提出率を90%以上にする。 ②基礎的・基本的な事項についての確認テスト(計算・漢字等)で正答率を学級の80%以上にする。	・読書は冊数を調べるだけでなく、おすすめの本(特に説明的文章)を学級文庫に置き、手軽に読めるような配慮をする。 ・宿題提出率90%にあたり届いていない学級があるので、引き続き指導していくとともに、提出率100%をめざす。	・朝の活動時に計算・漢字の小テストをどのクラスも定期的に行った。 ・係活動の取組では、子ども同士が自発的に宿題提出を促し合ったり、提出率がよかった児童の表彰をしたり、楽しみながら取り組めた。	・家庭学習の提出率は、全クラス90%以上達成した。 ・小テストの実施により、単元テストの正答率が上がった。 ・再テストを行うことにより、知識の再構成が図れ、基礎基本の定着につながった。
課題 文章を書く時に漢字やローマ字を使わない、ものさしを使わないなど、丁寧さや正確さに課題がある児童がいる。特に家庭学習については、個人差が大きい。	①計画的に宿題を出し、提出状況等を把握する。 ②朝の活動を計画的に活用し、反復練習時間の確保をし、計画的な小テストを実施する。 ③板書指導や音読指導と関連づけた視写活動を実施する。 ④音読と関連づけた暗唱指導や日記での指導をする。	①朝の活動の計画的充実(計算・漢字・音読・読書など)。 ②小テストの実施と工夫。 ③読書の目標冊数を学年に応じて提示し、学期ごとに目標を達成した児童を賞賛する。		評価 A	次年度における改善事項 ・読書冊数が増えなかったため、図書室へ行く回数を増やすような対策は必要である。 ・本の選び方の指導が必要だと感じた。 ・読書カードのチェックを定期的に行う必要がある。 ・学力差があるので、宿題に難易度の幅をもたせられるようにしたい。

### (2)知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況	具体的目標(目指す子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ 教師や友達の話を聞き、自分の考えを持ち、進んで発言しようとする児童が多い。友達などのよさに気づき、文章を長く書くことができる。	根拠や目的を明確にし、自分の意見を表明することができる。	ふりかえりシートに「自分の考えを根拠や理由を明確にし発表することができた」「自分の思ったことを(学年に応じたねらいで)文章に書くことができた」と答える児童が学級の80%以上	・ふりかえりシートでは、「書く」ことの項目で「できた」が概ね80%を越えていたので、話形の練習をするなどして、さらに指導していく。	・どの教科でも、かっこ抜きの答えだけでなく、キーワードを使って説明したり、考え方も書く機会を増やした。 ・意見の理由を述べたり、つけ足したりするように促した。 ・相手を意識して文章を書く機会を増やした。 ・話し合い活動を多く取り入れた。	・ふりかえりシートに「自分の考えを根拠や理由を明確にし発表することができた」「自分の思ったことを(学年に応じたねらいで)文章に書くことができた」と答える児童がどの学級も80%以上であった。 ・ホワイトボードを活用できた。
課題 文章を正確に読み取る読解力や思考力、表現力が弱い。「何となく」解いている。自分の思いを十分表現できない。	①視覚的に分かりやすい授業(ICT活用等、ノート指導)をする。日記、作文指導を週に一回以上する。 ②適切な指導法を教師間で共通理解し、一貫性のある指導をする。(研究授業を行う) ③特別活動における自発的・自治的活動を推進する。	①「聞く、話す、書く」について長期休業前に振り返りシートを書き、PDCAを行う。 ②校内研修で指導法の共通理解をする。 ③学級会、代表委員会の話し合いを継続する。		評価 B	次年度における改善事項 ・子ども新聞・ICTをもっと活用したい。 ・聞かれていることに合う回答の仕方、文末の書き方など、話形を教える機会をもっと増やすべきである。 ・辞典の活用をするなどして、語彙を増やす工夫をすべきである。 ・ペア活動・グループ活動を継続していく。 ・ノート指導をさらに積み重ねていく。

### (3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況	具体的目標(目指す子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ 得意なことは、何度も挑戦できる。やらなければならぬことは、やり遂げようとする。素直に指導を受けることができる。	自ら課題を見つけ、意欲的に学習する。進んで自分の考えを表現しようしたり、自主学習をしようしたりする。	長期休業前の振り返りシートで「学習や生活について、自分から、あるいは一人でも行動できた」と答える児童が学級の80%以上	・自主学習にどの学年も取り組み始め、少しずつ定着しつつある。成果指標を「学習や生活について、自分から、あるいは一人でも行動できた」から、「苦手なところを自主学習することができた」に変更する。	・日々のノートや自主学習ノートを紹介し合い、友達同士で賞賛し合った。 ・家庭学習の手引きを系統的に作成し直し、家庭へ配布し、学年便りに広報することに力を入れた。	・高学年では、自主学習の質の向上がみられた。 ・低学年では、自主学習が定着しつつある。 ・ふりかえりシートで「苦手なところを自主学習することができた」と答える児童が、高学年では80%以上であった。
課題 自主的に学習する態度が身につけていない。苦手な問題はあきらめがちで、もっと学習したいという向上心に乏しい。	①支持的風土のある学級経営をする。 ②家庭学習の手引きを見直し、児童に知らせ、全家庭に配布する。 ③家庭学習の仕方や状況を、学校・学級だよりや懇談などで、家庭に周知する。	①1ヶ月間の授業や活動の中で、学級すべての児童の意欲的な活動を賞賛する。 ②家庭学習について、毎月の学校・学級だよりや懇談などで広報し、家庭との連携を図る。		評価 B	・宿題をすることに精一杯の児童もいる。日々の積み重ねが大切なので、1日1問でも自主学習できるよう、プリントやがんばりカードを作成する。 ・授業改善を心がけ、アクティブラーニングの手法を研究し、取り入れる。 ・教室の後方に、自主学習できるプリントラックを用意し、自主的に学習できるコーナーをつくる方法を考える。

## 平成28年度 学力向上ロードマップ

